vol. 121
2023 Summer

市民活動情報誌

おうみネット

Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi

人と社会と未来をつなげる、ひろげる

［特集］「地域をつくる。」ってなんだろう。Ⅳ

一般社団法人
シガーシガ
▶ご紹介はP2

Contents

［特集］「地域をつくる。」ってなんだろう。Ⅳ　P2～4
人と地域とつながる事業所さん　P5
VIVA！CHOUJU！　P5
市民活動レポート　P6～7
未来塾17期生の虫の目・鳥の目・魚の目　P7
応援インフォメーション　P8

Ohmi Network Center
淡海ネットワークセンター
公益財団法人 淡海文化振興財団
https://ohmi-net.com/

特集 未来に向かって つなげる つづける

「地域をつくる。」ってなんだろう。Ⅳ

特集連載もいよいよ今号で最終回となりました。
いま、滋賀県の各地域でどんな動きがあるのかな。どんな人たちがいるんだろう。と、湖東（永源寺）、湖北（西浅井、長浜市）、湖南（草津市）とぐるっと周り、最終回は大津市北部の湖西地域です。

大好きなこの地域に心地よく住むためには？自分たちに何が出来る？今より、少しよくしたいね。

そんな想いが重なり立ち上げた「一般社団法人シガーシガ」。

写真家の山崎純敬さん、建築家の岡山泰士さん、福祉家の西翔太さん、美術家の市村恵介さん、この4人が中心メンバー。そこに様々な人がかかわり運営されています。

地域での幅広い取り組みをはじめ、行政のプロジェクトやイベントにも携わり、最近では“日本地域情報コンテンツ大賞2022”で2賞を受賞されるなど、その活動は多岐に渡っています。

職業はもちろん、出身地も異なり、この地に集まった背景もそれぞれ違う4人が出会ってすぐに意気投合したのは、湖西・旧志賀町への熱い想い。シガーシガの手によって、どのような変化が地域に起こっているのか、地域を愛して止まない皆さんにお話を伺いました。

●最初に、どんなことから始めたのですか。

■先ずはシェアファーム（貸農園）を作ろうと。メンバーの西さんが管理する「蓬莱の家共同作業所」は就労継続支援B型事業所。ここの利用者さんの就労のサポートと、地域の人がつながる接点にできないかと考えました。

●しかし、時は新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、緊急事態宣言へ。

■仕事が止まって今がチャンス！という感じで、耕作放棄地となっていた蓬莱の家の隣接地を皆で開墾しました。だけど誰も畑づくりの知識がない。そこで地元で新しく農業を営む、「ひら自然菜園」さんに入ってもらい、レクチャーを受けながらシェアファームがスタートしました。

こうしてスタートしたシェアファームは、現在有機栽培を体験できる畑として蓬莱の家と、ひら自然菜園が運営し、ひとつの「集まれる場」となっています。

地域のなかに無理なく存在する

●そこから「HOURAI Marche（蓬莱マルシェ）」へ？

■この地域に日常的に行ける「場」を作りたかったんです。そういった場所がこのあたりになかったので。だからイベント的な不定期のものではない、地元のマーケットのようなものを作りたいとマルシェを始めました。

しかし、この「HOURAI Marche（蓬莱マルシェ）」は、規模を大きくしない。単なる商業の場にしない。必ず開催する。出店者数を決める。などのルールがあります。

●普通は、規模を大きくしていきたいですよね。

■コミュニティハブにするためには、日常的な地域と人の場を作る。という目的を忘れずにトライ＆エラーを繰り返した結果です。地域の中に無理なく存在させたかった。加えて言うなら、年に一度のイベントなら盛り上げて成功させる自信はありました。けれど「継続させる。」こと、そして次に誰かに「運営を任せる。」ということも、自分たちのチャレンジとしてありました。

「継続させる」チャレンジは、毎月第一日曜日の開催が定着し、運営はシェアファームと同じく、蓬莱の家とひら自然菜園、そして学生や地域の人たちで作った実行委員会がバトンを引き継いでいます。

●バトンを渡す理由は？

■地域に生業を作った人、居続ける人を少しでもサポートしたい想いからです。誰かに渡さずに運営を続けていたら、ずっと自分たちのマルシェになってしまう。そうではなく、僕たちは仕組みを定着させたかったので、ある程度継続が見込めた時点でバトンを渡しました。

いや、それより早く渡されました。と、笑うのはバトンを受け取った「ひら自然菜園」のオーナー、加地玄太さん。加地さんは現在、シェアファームとマルシェの運営・企画を任され、シガーシガにかかわりながら、ご自身の農業も新たな形へと展開されています。

地域のショーケース。そして手に届くもの

●日常的なコミュニティハブとしてのマルシェ。その目的が確立されていくなか、思わぬ役割を見せ始めます。

■マルシェに来ることで、その場の雰囲気や空気感、いる人たちの佇まいを感じるなかで、出店にチェレンジしたい。手伝ってみたい。こんな場を自分の地域でも作ってみたい。というような想いの人が出てきました。また、行政から声がかかるようになったのもこのマルシェから。何よりこの湖西地域に移住したいという人が増え、実際に移住が増えました。マルシェがまるで、地域のショーケースのような機能を果たしているようです。

マルシェというショーケースをのぞくと地域が見えてくる。地域に存在するマルシェに育っているからこそですね。

シガーシガでは、湖西の暮らし、生活が見えるウェブサイト（https://reedit-northotsu.com/）や冊子（RE edit north otsu）も制作発信し、広く湖西地域の魅力と、そこにあるライフスタイルを届けています。これらはマルシェと併せ、「湖西で暮らしてみたい。」と思う人を確実に増やしています。

より豊かに地域を醸し出す

●実際に移住してくる人が増えるなど地域に変化が起きていますが、今後はどのような活動を考えておられますか。

■とにかくいろんな種を蒔いてきました。その種を地域でどう育て、循環させていくか。分散したものをもう一度集約して考えているところです。そして、マルシェとメディアと好奇心と。これらが自分たちの軸であることが改めてわかりました。「これがやりたい！」といった明確な目標があってやってきたのではなく、全て好奇心でチャレンジしてきました。そこに人が集まって、何かが生まれて、それを楽しんでアシストしてきたこと。それが今の結果です。これからもこの軸を中心に「大好きな地域に心地よく住むために」を、やっていこうと思います。

●最初にお聞きした「自分たちが大好きなこの地域に、心地よく住むために」ですね。

■それにはやはり、地域にあらたに生業が生まれて、小さくとも経済が動いていくことが大事だと思っています。時間のかかることだし、僕たちにはダイレクトには返ってきませんが、少なくとも地域に変化が起きる。だから、答えを早く求めず、急がずにやってきたいですね。

シガーシガさんのお話のなかで「いい距離感」という言葉をよく耳にしました。びわ湖、山との距離感。地元の人たちとの距離感。ご自分たちの立ち位置も、どこかに近寄り過ぎないようにと法人化されたそう。これもまた距離感ですね。“付かず離れず”いい塩梅で、シガーシガさんの「居心地のいい地域」は、どのように出来上がっていくのでしょう。これからも目が離せませんね。

コミュニティハブ『HOURAI Marche（蓬莱マルシェ）』実際にマルシェに伺ってきました!

この日のHOURAI Marche（蓬莱マルシェ）

伺った日は大雨!しかし、毎月1回必ず開催されるということで、今回も中止されることなく開催されていました。

それでも、「いつもよりは出店も人も少ないですよ。」と、お聞きするも想像以上の賑わい。いつも楽しみに来られている方が多いからでしょう。

「空間を大事にした。」という統一されたテントや看板は、その通り場にしっくり馴染んでいます。また、学生が主となっている実行員会の皆さんが、このマルシェに自主的にかかわっているかは動きを見るとわかります。

出店者さんも、もちろん商売ではありますが、それだけではなく、「この場を」一緒に楽しんでいる雰囲気が伝わります。そして、商品はそれぞれこだわりのある品々。地域で採れた無農薬の野菜や果物、地域の食材で作られたお弁当や環境に配慮したものなど、確かにここからも湖西という地域が浮かび上がってきます。まさにショーケースの中のひとつですね。

初めての『HOURAI Marche（蓬莱マルシェ）』でしたが、「またね!」と言いたくなるような、誰にとっても大切な、心地良い「日常的の場」になっているのがよくわかりました。

●毎月第1日曜日開催
●場所／滋賀県大津市南船路271-1

Profile

インタビュー：一般社団法人シガーシガ

2021年設立

湖西エリア（滋賀県大津市北部）を拠点に、そこに住む人がその場所により滞在できる仕組みをつくるべく、写真家の山崎純敬、建築家の岡山泰士、福祉家の西翔太、美術家の市村恵介の4人が立ち上げる。

4回に渡ってお届けした、『地域をつくる。ってなんだろう。』いかがでしたか。

地域での看取り、地域の農業を面白くビジネス化、ICTを活用して地域を高める。など、それぞれ個性豊かな、「地域」そして「活動」をご紹介しました。

改めて「地域をつくる。」ってなんでしょう？「自分の家や、その周りを掃除して美しくなれば嬉しいし気持ちがいいですよね。その気持ちを大切にできる人が増えてく事じゃないかな」と、取材時に聞いた言葉が印象に残ります。『あなたにとっての地域をつくる。』を、この特集を通して少し考えていただけると嬉しいです。

地域で社会貢献

人と地域とつながる事業所さん

「京都信用金庫 膳所支店」 街に飛び込み自分事へ！

大津市の膳所地区にある京都信用金庫膳所支店は昨年秋に新築され、支店長含め職員全員が20代～30代。そして何かしら膳所に所縁のある職員で新たにオープンされました。店内は高いカウンターや仕切りもなく、職員の皆さんもビジネスカジュアルで、明るく、場も人もフラットな印象を受けます。また営業時間も正午まで。これは午後からは街に出て、営業だけではなく「膳所の街をよく知る」ための時間とされています。お店のコンセプトも「まちづくり」。地元に縁のある職員で構成されているのも、街の課題をより自分事にして取り組んで欲しいとの想いからだそうです。

しかし、なぜ金融機関がそこまで?と尋ねると、「膳所は、大阪・京都への通勤圏として人口は増加していますが、高齢化も進み街に活気がなくなってきているのも事実です。地域に在り続ける店として手をこまねいているだけではなく、地域の皆さんと一緒に街に活気を取り戻したいと思うからです。」と、やはり地元の小中学校に通っていたという小寺慎吾支店長。こうして職員ひとり一人が地域の人とふれあい、時には一緒に汗を流し、魅力ある街づくりを進めています。

なかでも街の大きな課題である「空き家問題」は、地域の活性化と結び付け解決できないかと様々な取り組みを実践中。「事業を始めたい借り手と、空き家の貸し手との橋渡しが出来ればと思っています。事業が生まれれば街に活気が出ますからね。そして、その事業が根付くよう地域の人と一緒に応援し、本業の金融としての力も尽くしていきたいと思います。」と話す小寺支店長。この取り組みが芽を出し、新たな活気が生まれると嬉しいですね。

その一方、ユニークな銭湯や飲食店なども出来ているそうですが、その事を知らない住民の方も多いので、職員自身が地域内でイベントを企画したり、また支店内をコミュニティスペースとして開放するなど「街を元気にする」きっかけを作りだしています。

こうして街と人に寄り添い、自分事として課題に取り組む京都信用金庫膳所支店の皆さん。今日も「おせっかいバンカー」として、膳所の街に飛び出します。

●開　設／1974年
●現在地／滋賀県大津市本丸町1番1号

VIVA! CHOUJU!

Vol.1 口呼吸になっていませんか？

今号から簡単にできる、ちょっとした「健康法」を田畑里佳さんにご紹介いただきます。日常に取り入れて心身ともにますます健康に！合言葉は『VIVA!CHOUJU』!!

鼻は花粉やウイルスなどから体を守るフィルターのような役割があります。
鼻がつまっていて口呼吸が習慣になると、以下のような問題が起きやすくなります。

- 花粉やウイルスが口からダイレクトに入っていきやすい
- 口内が乾燥して喉が痛くなる
- 睡眠時無呼吸症候群（SAS）が起こる可能性がでてくる

そこで、オススメなのが鼻うがいです。
鼻呼吸が楽になるので、花粉症やハウスダストなどのアレルギー症状でお悩みの方は一度お試しくださいね。

田畑里佳（ARICA）
インド政府公認ヨーガインストラクター。びわ湖が好きすぎて2016年、滋賀に移住。2021年にカラダが硬くても、運動が苦手な人でも楽しく運動できるフロシキを使ったYOGA【FLOWSHIKI】を考案。関西近辺でクラスを開催中。

鼻うがいのやり方

1. 専用容器に人肌程度の生理用食塩水を入れます。（どちらもネットショップやドラッグストアで購入可能ですが、生理食塩水の代用になる洗浄液は自宅でも簡単に作れます。180mlの水を一度沸騰させて、人肌くらいにぬるくなったお湯に小さじ半分の塩を溶かすと完成）
2. 前かがみの状態で「あー」と声を出しながら、やや顔を横に傾けて、片鼻の穴に容器をさしこみます。反対の鼻の穴から、食塩水をゆっくりとだしていきます。
3. 両方の鼻が終わったら、ティッシュで鼻を優しくかんで鼻に残った洗浄液をだして終了。

学習支援

認め合い受け入れる場を堅田にも

【名前の由来】

代表者の心の中でくすぶっていた「地域に何かしたい」気持ち。仕事や家庭を維持しながら活動するにはどうすればよいか?「できることから1時間=1hour=いちあわあ」と考えました。来られる方にも、無理なく自分のペースで参加していただきたいという思いを込めています。

【思いを形に】

私自身が難病や生きづらさを抱えて生きてきました。数多くの人間関係の失敗では、見捨てず手を差し伸べて下さった方々に助けられました。今度は自分が動く番です。生きづらさを感じている人たちを排除するのではなく、理解し、受け入れる場を作りたい。そのために、当事者だけでなく地域のいろんな環境・立場・属性の人たちに集まってもらいたい。できることから1時間、地域に住む子どもも大人もごちゃまぜで集まり互いを知る場から始めよう。こうして昨年10月「まなびつながる堅田の居場所 いちあわあ」が誕生しました。

【活動内容】

- ●生活まなびプログラム：自身の経験・知識・仕事・趣味などを活かして楽しいまなびを進行する「まなびゲーター」とともに、生きる力を育み、親以外にも話せる大人を見つけるプログラム。夏休みは、「宿題・自由研究・ごはん・遊び」の学習支援・居場所を予定しています。
- ●親のおしゃべり会:家庭内で悩みを抱え込むのはつらいこと。否定せず押し付けず聞いて話してホッと一息ついてもらえる居場所です。今の悩み、教育、昔話、カフェ情報など、会話は毎回バラエティに富んでいます。
- ●子どもたちに働くイメージ作りを:8/26(土)堅田湖族まつりが開催されます。いちあわあでは「子どもカフェ」の出店を計画中。お金や仕事に関するワークショップ・お店見学でイメージを膨らませ、メニュー、看板、接客、全て子どもたちで作り上げる仕事体験です。ぜひ応援に来てください。

【寄稿】横田優美子さん

2023年度笑顔あふれるコープしが基金採択団体

いちあわあ

●代表／横田優美子　●設立／2022年
●https://www.instagram.com/1hour.ktt/?igshid=NTc4MTIwNjQ2YQ%3D%3D

出産・子育て支援

産み方が生き方。産む人の想いを大切に。

経験豊富な助産師８名がひとり、ひとりの妊娠、出産、産後、子育てのサポートを、心身共に寄り添う「共同助産所・お産子の家」。自宅で出産していた時代から、病院で出産することが当たり前になった今、共同助産所を開設された思いなど、代表の齊藤智孝（さいとう ちたか）さんにお話を伺いました。

出産は病院で。この考えになったのは戦後GHQの指導から始まり、医療の進歩や医学の変化に伴い現在に至るそうです。これにより新生児の死亡率が大きく減少した一方、「こんなお産がしたい」など産む人の願いや希望が、なかなか叶えられない状況にもなったと齊藤さんはおっしゃいます。そこで、出産には選択肢があり、安心安全な場を提供しようと「お産子の家」を開設されました。もちろん医療機関と連携をされているので、母子の状況よっては病院での出産へ切り替えることや、相談に来られた上で病院を選択される方もおられるそうです。それぞれに選択することが大事。誰かの言いなりの出産ではなく、主体性を持って欲しいと齊藤さんは言います。こうしてお産に向き合い尊重された出産は、母親に肯定感が生まれ、子どもと共に生き育む喜びによって産後鬱や育児放棄などに繋がりにくいそうです。しかし、悲しい事件が後を絶たないのが現実。母子を取り巻く厳しく根深い問題は、思春期の性教育に始まり長期的で継続したアドバイスや支援が必要で、お産子の家ではその一端を担っています。

最後に理想の出産とは？とお聞きすると「感性を磨いて欲しいです。この人と一緒にいたい。といった感性がいま鈍っているように思います。シンプルな心の根源を取り戻して欲しいですね。すると命を迎える準備も自ずと出来ますから。」と、話してくださいました。理想の出産としてお答えいただきましたが、私たち一人ひとりにも言える大事な言葉かもしれません。

共同助産所・お産子の家

●代表／齊藤智孝　●設立／2021年
●https://www.osanko.com/

文化継承

見て楽しい！演じて楽しい！ものづくり ～まだ進化系です～

「近江猿楽　多賀座」は、県内最古の猿楽座の発祥の地が多賀であることを誇りに、町の「新しい顔」づくりとして1993年に結成、今年30周年を迎えられます。今回は二代目代表の土田雅孝さんにお話を伺いました。

猿楽は能や狂言のルーツともいわれ、奈良時代から続く芸能ですが、実態は謎。文献もなく、まさに「猿真似」からのスタートでした。

そんな折、座員の一人がたまたま深夜ラジオを聴いていたことがきっかけで、狂言師　故野村万之丞さんと出会え、ご厚意により直接指導いただけたことが、多賀座の活動の原点となりました。また、多賀大社の祭礼「万灯祭」で、毎夏発表する場を与えられたことで、子どもからお年寄りまで仲間を増やしながら長く続ける礎に。

その万灯祭では、地元の大学生、企業、地域住民を大きく巻き込み、太鼓や笛を奏でながら躍動する姿が観る人を魅了。自然と多賀町のPRの役割を果たし、各地から出演のお声がかかり、全国植樹祭や、数々の大舞台にも出演することに。万之丞氏とのご縁では長野パラリンピックにも出演されたそうです。そしてなんといっても多賀座からプロの狂言師も輩出されたそうです!

ただ、少子高齢化の問題は多賀座にも。コロナ禍もあり現在は大人太鼓部のみで活動中。

しかし「やり続けなければ急には舞台には立てない」と土田さん。そして、「まず楽しくなければ続かない。結成時から目指し続けるのは『見て楽しい、演じて楽しい芸能』を創り、ワクワクして見てもらうこと。」と、力強く話してくださいました。

何もないところからスタートされたことで、時代の変化に柔軟に対応し、工夫を重ね、多賀座独自のアレンジとなり、気づけば「多賀町の顔」として、次世代へとバトンタッチしながら地域とともに伝統文化を守ってこられたのですね。

座は今なお進化系。新たな作品を構想中とのことで、子ども達の躍動が戻る日を心待ちにしたいものです。

近江猿楽　多賀座

●代表／山本徳之　●設立／1993年

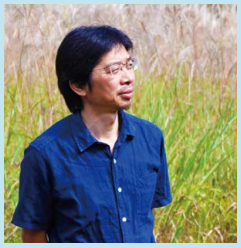
Challenge

未来塾17期生の 虫の目・鳥の目・魚の目

地域の課題を発見し、解決のための方策や活動を実践する「地域プロデューサー」が育つことを目指す「おうみ未来塾」。17期より運営体制が大きく変わります。

今回は、運営委員長に就任された藤田知丈さんからのメッセージです。

来たれ！未来の地域プロデューサー



こんにちは！今年から「おうみ未来塾」の運営委員長になった藤田知丈です。

1999年に第1期が始まって以来、ずっと未来塾を支え続けてくださっていた塾長の北村裕明さん、運営委員の岡﨑昌之さん、藤井絢子さんの3名が、昨年12月、第16期生の卒塾とともに勇退されました。

その後を継いで運営委員になった5人は、私も含めて全員が未来塾の卒塾生。市民活動のベテラン・カリスマがご意見番として支える体制から、自らも塾生時代を経験して酸いも甘いも分かる、より塾生に近い立場の卒塾生が塾生の活動に寄り添いながら伴走支援する体制にシフトします。

さらに、運営委員の5人以外にも卒塾生は県内外に大勢いて、それぞれが地域で活躍しておられます。この卒塾生ネットワークを最大限に活かして、現役塾生の活動と卒塾生との連携も深めていきたいと考えています。

全国・地球規模で社会が大きく変容しつつある今こそ、ローカルに人・もの・コトをつなぎなおし、新たな発想で楽しみながら地域をプロデュースできるアクティブな人材が必要です。そんな地域プロデューサーが持続的に育ち、活躍し続ける滋賀の風土づくりが、おうみ未来塾の使命です。

現在、第17期生を募集中！（7/15まで）あなたも、私たちと一緒におうみ未来塾で学び、地域プロデューサーをめざしませんか？

おうみ未来塾 地域プロデュース実践講座

おうみ未来塾のホームページをリニューアルしました！

未来塾や塾生募集について、詳しくはホームページをご覧ください。
https://ohmi-net.com/ohmi_miraijyuku/

Summer Information

市民活動を応援する淡海ネットワークセンターの事業をご紹介します。

募集 公益財団法人 淡海文化振興財団 賛助会員募集 クレジット決済でご入金いただけるようになりました!

淡海ネットワークセンターでは、当センターの目的に賛同し、事業運営にご協力いただける「賛助会員」を募集しています。年会費は個人1口3,000円、法人1口10,000円です。豊かな社会をめざして温かいご支援ご協力をお願いいたします。なお、従来の入金方法に加えクレジット決済でもご入金いただけるようになりました。ぜひご利用ください。

※当財団への寄付は、税制優遇（寄付金控除/損金算入）の対象となります。

募集 『おうみ良うなる! 元気商品プロジェクト』 協力企業等募集中!

このプロジェクトは、企業等の商品やサービスの売上げの一部を未来ファンドおうみへ寄付していただき、おうみ（滋賀）の地域社会をもっと良くしていこうとするものです。

現在、寄付つき商品（おうみ良うなる! 元気商品）の普及にご協力いただける企業・団体等を募集しています。詳しくは当財団ホームページをご覧ください。

※本プロジェクト参加団体（敬称略）

■近江通商株式会社「近江里山の薪と炭」
■株式会社ロハス長浜「和りんごサイダー」
■一般社団法人 比良里山クラブ「比良ペリラ（Hira Perilla）」
■有限会社ノリアキ工房
「Bonwacc（ボンワック）ダイヤ織ディッシュクロス・6重ガーゼフキン」
■株式会社JINEN「美しいびわ湖石けん全身シャンプー・ヘアリンス」

2023年5月現在

講座 クラウドファンディング講座

数々のプロジェクトを成功に導いてきた講師から「プロジェクト成功の秘訣」を学びましょう!

【日時】2023年7月27日（木）　14:00～16:00（予定）
【場所】滋賀県立県民交流センター（ピアザ淡海）301会議室
【講師】植田 淳平さん
【申込方法】QRコード、お電話またはE-mailにてお申込みください。
E-mail：office@ohmi-net.com
（講座名、ご所属、お名前、Email、電話番号を明記）
【問合せ】淡海ネットワークセンター（佐藤）TEL.077-524-8440

募集 おうみ未来塾17期生募集!

今こそローカルの時代!みんなのチカラで地域を元気にあなたも、おうみ未来塾で「地域プロデューサー」をめざしませんか?

前半 現地で学ぶフィールドワークと連続講座（2023年9月～ 2023年12月）

- 9月 9日（土） 入塾式（ミニ講座）「地域プロデューサーの心得」
- 9月23日（土） 第1回本講座 「柏原のまちづくり」
- 10月 1日（日） 第2回本講座 「多文化共生の地域づくり」
- 10月29日（日） 第3回本講座「仲間とともに自分らしく暮らすための コミュニティー・オーガナイジングを学ぶ」
- 11月18日（土） 第4回本講座「暮らしと子育てのコミュニティー」
- 12月 9日（土） 第5回本講座「チームでの学びと事業計画づくり」

後半 グループで地域課題に取り組む実践活動（2024年1月～ 2024年12月）

- グループ活動開始
- 目標発表会
- 中間発表会
- 成果発表会・卒塾式

期　間　2023年9月～2024年12月　定　員　25名程度
応募条件　18歳以上で地域社会の課題解決や市民活動に主体的に取り組む意欲のある人
受講料　入塾時2万円、翌年2万円

応募方法

詳細は、淡海ネットワークセンターのホームページをご覧ください。
https://forms.gle/Viq2pcy7SXzueR41A
こちらから、ご応募できます。➡

締　切　2023年7月15日（土）

お知らせ 遺贈寄付のご案内

淡海ネットワークセンターは、2023年4月1日より遺贈寄付の受け入れを開始しました。
おひとりおひとりの“想い”を、より良い地域社会づくりのために行動する志ある市民団体へと、責任をもって確実におつなぎいたします。
遺贈寄付であなたの想いを未来へ届けてみませんか。

詳しくはこちら➡
https://ohmi-net.com/kifusanjyo/izoukifu/

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。
発行日／2023年7月1日　発行所／公益財団法人 淡海文化振興財団
〒520-0801　大津市におの浜1-1-20　ピアザ淡海2階
TEL：077-524-8440　FAX：077-524-8442
https://www.ohmi-net.com　E-mail：office@ohmi-net.com
開館日：市民活動ふらっとルーム／火～土曜日（火～金曜日の祝日は休館）
事務所／火～日曜日

淡海ネットワークセンターのHPは右記QRコードでご覧になれます。セミナーや助成金、イベント情報も掲載しておりますのでぜひご活用ください。

VEGETABLE OIL INK　この印刷物は大豆油インキを包含した植物油インキを使用しています。